

女子大学のパイプオルガン

鴛 淵 紹 子

女子大学音楽学科にパイプオルガンを設置したいということは、学科創設当初からの念願であった。一九六九年一月、折から来日中のドイツ・クライス社のオルガン製作技師が女子大学に来られ、測量がおこなわれたことから話は具体化のきっかけをつかんだ。ちょうどドイツ留学中であった私は、ボンにあるこの会社をたずね、オルガンの規模、音程の種類、価格等について種々話しあった。一九七〇年に、宮城学院女子大学が文部省私学研究設備補助金を得てオルガンを購入したことから、女子大学長のおすすめもあり、音楽学科では一九七二年度の研究設備として、その補助金の申請をし、オルガンをクライス社に発注した。申請は認可され、頌啓館三階ステージの一部補強、改装も終り、外装は日本楽器で作り、あとは本体到着をまつばかりであったその時点において、全く信じられないできごとがおこった。八月末、神戸港についての荷物がはしげごと一夜の中に海中に沈んだというのである。汚染のはげしい海水に一晚つかっては、楽器は台なしである。クライス社と業務提携をしている日本楽器と、船会社、保険会社との間に、さまざまのやりとりがあり、文部省には再申請することになり、すべてはふり出しにもどった。同一設計図で、二度作ることのない

オルガンをもう一度作って頂き、新しいオルガンは一九七三年十月二十二日分解され、八つの木箱に入って頌啓館にやってきた。クライス社で、数年間オルガン組立の勉強をされた日本楽器の津田桁雄氏、他数名の方々の努力で、十二月一日組み立ては完了した。

オルガンはひじょうに長い歴史をもつ楽器であり、その性格、音色、機能は国によって、又、時代によってひじょうに異なる。そして、その性格の両極端にあるのが、バロックオルガンとロマンチックオルガンである。オーケストラの音色に適合するように作られていったロマンチックオルガンの一例が、栄光館のパイプオルガンである。それに対して、頌啓館の新しい楽器は、バロックオルガンの構造原理をもって作られている。送風装置こそ電気力で運転されるようになったが、鍵盤の働き、ストップの動き、発音装置においては、十七—十八世紀に完成されたメカニック式構造原理が、オルガン製作において、今なおもっともすぐれたものであるということは、現代における一つの驚異である。折ある時、同志社の二つのパイプオルガンの音色をききくらべて頂ければ幸いである。

(女子大学教授・鍵盤音楽)

南山義塾と新島襄



竹内力雄

祝言

⅓

予ノ南山義塾ニ忠告ニ非ラス唯望ム所ヲ陳ス有志諸君ノ篤志ヨリ此美拳アリ人才陶冶ノ機械已ニ具備セリト云ヘシ

○社員ニ望ム所ハ充分維持方ニ注意シ学校ヲシテ一地位ニ安著セス日々々々ニ進歩改良セシムルノ策ナカルベカラス ○教員ヲ撰択スルニ注意セザルベカラス

○教員 教員ノ任ハ殊ニ至重教員其教方ヲ誤ラハ如何シテ人物ヲ企図スベケン ○今ノ教師多クハ人物ヲ養成スルヲ以テ其目的トセス月給ノ多少ニヨリ其所ヲ移シ月給ヲ食リイサ、カ己ノ淫慾ヲ逞スル等ノ輩モ陸統輩出スルアレハ如何シテ生徒ノ品行ヲ端正ナラシメ有用ノ人物ヲ陶冶シ得ベケン ヤ ○教員諸君ヨ教員ノ心得ト為スベキ所ハ身自(ヲ)生徒ノ卒先者トナリ生徒ノ標準トナリ生徒

ノ志操ヲ高尚ナラシメ又生徒ノ氣質ニ随ヒ幾分カ教ユル所ヲ異ニシ生徒ヲシテ智進ミ徳高カラシメハ教員ノ任ハ大ニ重高ナリト云ヘキナリ ○体育 ○智育 ○心育(多クヲ食ラシメス克ク味ハシムベシビーフステッキ) ○父兄 社員ノ尽力セルヲ徒為ニ厲セシムル勿レ

教員ノ教ヘシノ者ヲ損滅スル勿レ 吉野ノ例 教員ヲ撰フ唯一人ノ掌握害アリ他人

之ニ喋々スルヲ得ス撰ヒニ応ジタル教員ハ真ノ腐儒者ニシテ当時ノ現況ヲ了知セス洞察セス古風ノ野蜜流ヲ慕ヒ之ヲ教ヘターフルヲ廢シランブヲ廢シ又随テ自由ノ精神ヲ発達セシムル等ハ更ニ注意ナサルベシ ○他ノ例 同志社ニ來レル一人ノ生徒父兄ノ誤リニヨリ寺僧ノ勸メニ隨ヒ遂ニ学問ヲ廢シタリ ○生徒ノ心得 如斯社員方教員父兄方業ノ成ル「ヲ望マル、ニ

不勉強ニシテ正ニ成業セサレハ是レ何レノ過トゾ

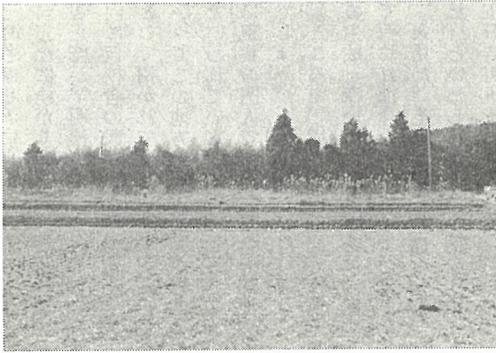
(數ノ中ニ満足シテ居レト云ハ、不都合千万人鶴トナリ飛揚ラントスルヲ以テアブナイ矢張我ト同伴

○教員タル者己カ雀ノ如キ人物デアリ生徒ノ中ニ鶴ノ如キ

○教員ノ職ハ太政官ニマサル ○卑賤ヨリ人物生ス ○リンコルシガフヒールド京都ノ知事 ○田舎ノ人ニ望ム所 ○イトンノ話シ ○真理ヨリ自由ノ生スル所 ○人民ノ友トナレ

(新島 襄 自筆)

京都府下、田辺町の同志社教職員住宅もその景観を整えつつある昨今ですが、この住宅地の南側を流れる普賢寺川を隔てて一つの竹藪が見られます。これは昭和四十七年二月地元の方よりお話しがあつて同志社の所有となつたもので、約二千四百坪あるとのこと。学園橋を渡り左に折れ竹藪の中央に来ますと「南山義塾遺跡」と刻ん



南山義塾跡地

だ石碑が目にとまります。昭和三十二年秋に田辺町と田辺郷土史会が建立されたことがその裏面に誌されています。

さて、同志社の新島義塾品庫にはこの南山義塾に対する「祝言」と題した自筆のメモが残されています。田辺地方となかなか関係が深かった訳です。この南山義塾は当時の私立中学校に相当するもので、京都の儒者山口正養が田辺の先覚者、有力者に招かれて棚倉孫神社の境内に設けた蓋馨家塾（かきんかじゆ）がその前身です。この蓋馨家塾はもと京都市内衣棚通竹屋町下ルにあつたもので、明治九年末現在調査の記録によれば、支那学を教授し教員一人生徒八人、とあります。そして明治十年三月一日付で田辺への転塾届が山口正養名で出されています。

田辺地方の小学校を卒えた向学心に燃える青年たちや社会の要求に応えるべく、この塾を発展的に解消して明治十四年十月に生まれたのが南山義塾であり、仮校舎が設けられたのは義塾記念の石碑を背に田の中の道を百米程歩んだ所にある高木町公民館のところだったそうで、そこに記念の標識があります。明治十五年になって今の竹

遺跡 石碑



藪のところどころに堂々たる学校設備が完成したとのことで、授業内容もりっぱに整っており、学業規則、試験規則も精細に定められ相当のものであったと聞きます。この義塾の発起人の方々はこの地の先覚者、有力者であり同時に民権運動家でもあったので、この義塾も南山城地方民権運動の一つの拠点であったと思われれます。教師陣には宮津の天橋義塾卒業生木村栄吉氏もあったとのことです。やがて南山義塾は明治十八年二月に、その校舎、財産のすべてを寄付して、府に移管され、京都府立三山木中学校となつて解消する訳です。

以上、南山義塾の大略についてですが、民権運動といえば、官津出身の民権運動家小室信介、沢辺正修を記念する小室・沢辺文庫が明治二十四年に同志社に寄託され、

その名は我々に身近かなものですが、この同志社にゆかりの深い民権運動家の一人沢辺正修が、明治五年、さきの棚倉孫神社境内に仮校舎の設けられた田辺小学校の教師として招かれており、この沢辺の力があずかってこの地方に民権運動が盛んになったといわれています。沢辺はさきに挙げた山口正養の門人であったことも記憶さるべきでしょう。

ところで、横井小楠、同志社熊本バンドの生成と深いつながりがあり、勝海舟をして「おれは今までに天下で恐ろしいものを二人見た。それは横井小楠と西郷南洲とだ」といわしめたこの小楠を明治二年一月五日寺町丸太町下下御霊神社前にて襲った刺客六人のうち四人が京を脱出して田辺普賢寺の南朝とゆかりの深い南山郷士の一人大庄屋田宮家をたよって来ています。当時の田宮家当主貞清の実弟で仲嶋家へ養子に出た仲嶋武臣が小楠暗殺者たちと同志の関係にあったからだといわれています。暗殺者連は数日後田宮家から逃走するのですが、彼らは変名して一書を田宮家に残しています。「打物の鋭も鈍も大丈夫のころ

の内にあらむとそおもふ 無芸大(食)」、
「今更に名残をおしむ郭公また一声を聞かまほしさに……題中嶋盟兄、名残をおしみて子安地藏之助」、「靈剣一振天下治子安地藏之助 中村君」……

時代は十数年下って田宮家の当主となった田宮勇と、横井小楠の思想が結実したともいべき熊本洋学校から生まれた、いわゆる熊本バンドを同志社に迎えた新島襄との間に大学設立をめぐる交渉が生まれるのです。明治十六年三月三日付の田宮勇宛新島襄書簡が田宮家から寄贈されて新島遺品庫中にあり、当時明治専門学校と称した同志社大学設立についての依頼が陳べられています。その他田宮家には明治二十一年三月十七日付の新島襄書簡が残されています。「御珍敷馬鈴薯御投与被下難有受納仕候何レ拜肩之節万々御礼可申上候 早々以上……」とあります。何かしら不思議ともいへべきつながりなのでしょうか。

(社史々料編集所々員)

新島襄研究参考図書

My Younger Days

同志社校友会

新島先生書簡集(森中章光編)

同志社校友会

新島先生書簡集―続(森中章光編)

同志社校友会

新島襄書簡集(同志社編)

岩波文庫

新島襄先生(徳富蘇峰著)

同志社出版部

新島襄―人と思想(魚木忠一著)

同志社出版部

新島襄(岡本清一著)

同志社出版部

新島先生と徳富蘇峰(森中章光著)

同志社

同志社九十年小史

同志社

同志社々史々料編集所(編)

同志社

雑誌「新島研究」

同志社新島研究会

新島襄(和田洋一著)

日本基督教団出版局

※比較的参照しやすいものを掲載